

県連ニュース

発行者：木原 望
TEL：096-387-2826
FAX：096-381-5442

家庭医プログラム相互交流会が開催される

他流試合でレベルアップ！患者中心の医療を実現

6月17日(土)熊本民医連と京都民医連の家庭医プログラム相互交流会が、京都民医連中央病院にて開催されました。昨年10月に引き続き第2回目の交流会で、熊本からは指導医1名、専攻医3名、事務1名、京都からは指導医4名、専攻医3名、事務4名で合計16名が参加しました。

ポートフォリオ検討会では5名の専攻医(京都3・熊本2)が発表を行い、活発なディスカッションが行われました。発表を行った光永顕彰先生と東雲先生との発表内容はどちらも、患者さんとの家族の意見が違うケースでその間に立つ医療者の実践をまとめたものでした。

患者中心の医療に取り組みくわみず病院内ではの報告で、医療者側の葛藤も描かれており多くの職員の共感を呼ぶ内容だと思えます。交流会を終え専攻医からは「京都の先生方に専門的なきとでもありがたかった。こ

ういう他流試合は自分の課題も含めてレベルが確認できるので今後も是非やりたい。」との感想が聞かれました。また、指導医からは「昨年開催時よりも専攻医の力がついてきているように思う。熊本での研修がそれなりに充実してきたのではないかと、研修の充実に向けての活力を得ることができました。今後相互交流を続けていく予定です。くわみず病院 研修担当 安達止揚吾



「ノーモア・ミナマタ裁判学習会」

ノーモア・ミナマタ第2次訴訟の第1陣原告48人が提訴して4年が経過しました。いま、裁判はどうなっているのか？争点は何なのか？などをテーマにした「水俣病裁判学習会」が6月27日(火)くわみず病院別館3階の大会議室で開催されました。民医連も参加する水俣病闘争支援熊本県連絡会議が主催したもので民医連のネット環境も利用し水俣や天草も含めて50人を超える医師、医療スタッフ、支援者、原告が参加しました。

学習会では、中村輝久弁護士が原告の特徴や裁判に至る経緯など裁判の全体像を、村上雅人弁護士が争点の一つとなっている暴露について詳しく講演しました。参加者からは「初めから終わりまで、きちんと頭の中が整理できた」「昭和31年当時の新聞や議会の議事録まで調べて反論しているのはすごい」「民医連が取り組んでいる検診などについても“民医連なしでは裁判ができない”と評価されもっと頑張る気になった」などの感想が寄せられています。

県連事務局 原田敏郎

